

松本秀峰オーケストラ部



松本秀峰中等教育学校（松本市埋橋）のオーケストラ部が、東京・日本青年館で二十六～二十九日に開かれる「全国高校選抜オーケストラフェスタ」で演奏を披露する。中高一貫校として開校した二〇一〇年に創部され、活動は五年目。入部していく部員は初心者が多く、一人一人が昨年より成長した姿を見せるつもりだ。

（成田嵩憲）

東京で26日から 全国高校選抜フェスタ

フェスタでの演奏は二年連続で、部員六十六人のうち四十四人が出場を予定。昨年はモーツアルトの「フィガロの結婚」序曲など二曲を演奏したが、リズミカルで技術が求められるベートーベンの「交響曲第七番第一楽章」の一曲に絞った。練習は授業が終わってからの週三回で、一回は六十～九十分ほど。全体練習の時間は少なめだが、平日朝や休日の自主練習で補つていい。部員同士で気軽に教え合う雰囲気があり、顧問の瀬川伸教諭は「結束力がある」と話す。

十七日につづく練習

古原教諭（左）の指導を受けながら練習を続けるオーケストラ部員ら＝松本市の松本秀峰中等教育学校で

結束力で2年連続出場

では、小節ごとに各パートを確認しながら進めた。弦楽器と金管楽器が順に奏でる掛け合いで、「もう少し音を小さく」「長さに気を付けて」など顧問の古原さよ子教諭の指導の下、部員たちは集中しながら美しい音色を響かせた。

創部当初から五年間

部長を務める瀬川愛さん（左）は「入部当初は自分の演奏でいっぱいモーツアルトの「フィガロの結婚」序曲など二曲を演奏したが、リズミカルで技術が求められるベートーベンの「交響曲第七番第一楽章」の一曲に絞った。練習は授業が終わってからの週三回で、一回は六十～九十分ほど。全体練習の時間は少なめだが、平日朝や休日の自主練習で補つていい。部員同士で気軽に教え合う雰囲気があり、顧問の瀬川伸教諭は「結束力がある」と話す。

フェスタは全国高校オーケストラ連盟など二チームが登場し、県内からは同校のほか、長野・上田・小諸の各校と、屋代・須坂・長野西で構成する合同チームが演奏を予定す